



ひばり

<http://www.meguro.ed.jp/meguro3j/>
mail meguro-3jp@meguro.ed.jp

目黒区立第三中学校

学校だより NO. 15
(通巻 73)

平成 24 年 (2012)
1 月 10 日 (火)

『画竜点睛』

校長 飯野 博史

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

元旦、毎年恒例となっている「初日の出」を見に、自宅近くの土手に上がりました。あいにくの曇り空で、今年は「初日の出」を拝むことができませんでした。その足で帝釈天に初詣、三中のますますの発展と皆様のご健勝、3年生の進路決定などを祈願してきました。希望あふれる、明るい年にしていきたいと思います。

今年の干支は辰、今日の全校集会で辰年にちなんで「画竜点睛」という故事成語をもとに次のように話をしました。（「睛」とは「瞳」のことです。）

「中国の南北朝の時代、南朝の梁に張僧繇という名画家がいました。あるとき彼は、金陵（今の南京）の安楽寺の壁に竜を描くことを頼まれ、4匹の白い竜の絵を描きました。その竜は今にも壁を突き破って天にも昇りそうな勢いがあり、見る人すべて息を飲みましたが、不思議なことに瞳が描き入れられていませんでした。

不思議に思った人々が彼に理由を尋ねると、彼は『もし瞳を入れたら、竜が天に飛んでいってしまうからだよ』と言いました。しかし、人々は信じることができずに、ぜひ瞳を描き入れるように彼に求めました。

そこで仕方なく彼が4匹のうち2匹に瞳を入れると、たちまち稲妻が走って、壁が破れ、2匹の竜は雲に乗って天に飛び去ってしまいました。あとには瞳を入れなかった2匹の竜だけが残ったそうです」（『漢文故事物語』評論社などを参考にしました。）

この故事から「画竜点睛」という言葉が生まれ、「物事を立派に完成させるための最後の仕上げ」という意味で使われるようになりました。

今日から後期後半が始まりました。登校日を数えてみると、3年生は卒業式まで49日、1、2年生は修了式まで53日です。大変短い期間、しかしこの期間は一年間を締めくくり、最後の仕上げをする時期です。3年生にとっては中学校生活の最後の仕上げをする重要な時期です。この時期をしっかりとした気持ちで過ごすことが、4月からの新しい生活や学年のいいスタートにもつながっていきます。

「画竜点睛」、最後までしっかりと充実した生活が送れるように、ご家庭でもご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、本校では平成22・23年度「東京都教育委員会人権尊重教育推進校・目黒区教育委員会教育開発推進校」として人権教育の研究・実践に取り組んで参りました。下記のとおり研究発表会を開催し、研究の成果を発表することとなりました。お忙しい中とは存じますが、ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

・ 日 時 平成24年1月16日（月） 1時～ 受付（ランチルーム）

1時30分～2時20分 全学級授業公開

2時30分～4時30分 研究発表、講演（体育館）

・ 講演 「震災と人権」 浦野 愛先生

NPO法人 レスキューストックヤード常務理事

《生徒の活躍》

○第3位 卓球女子シングルス
1年女子2名

目黒区卓球新人大会 12/23

○1年生「お肉の情報館」を活用した人権学習

11月22日（火）、1年生がJR品川駅近くにある「お肉の情報館」を見学しました。普段口にしていないお肉が食卓に届くまでの経路、職員の方の仕事に対する思い、職員の方たちに対するいわれのない偏見や差別などたくさんのことを学びました。見学の後、感想などを職員の方へのお礼状の形でまとめてみました。遅くなりましたが、紹介します。



○女子の感想文

先日は「お肉の情報館」を見学させていただき、ありがとうございました。

私が一番印象に残ったことは、食肉センターに届く悪意の込められた手紙についてです。その手紙を読んでみてまず私はなぜこんな手紙を書く人がいるんだろうと思いました。自分に子どもができたなら、こういうことがいかにいけないことを教えようと思いました。手紙に書いてあったことはとても幼稚なことばかりであり、このような手紙を書いている人は牛肉も豚肉も食べないのかなと思いました。

私はと畜解体の仕事に興味をもちました。ビデオを見たときなぜ血抜きという作業が必要なのか不思議でしたが、説明してもらって最初に血を出さないとまずくなってしまうからだということが分かりました。ささいなところまで気にしてくださっていることに感動しました。これからも仕事を頑張ってください。いつまでも応援しています。

○男子の感想文

先日はどうもありがとうございました。「お肉の情報館」見学でとても印象に残っているのが、と畜解体のビデオです。最初の方の牛や豚を気絶させて、その状態からのどを切るという場面で、もう残酷すぎて見ていられませんでした。でもこのような作業がなかったら、ぼくたちはお肉を食べることができません。そう思って、ぼくはいつも食べているお肉がどのように解体されていくのか、ちゃんとビデオを見ました。

ぼくが一番びっくりしたのは、解体した牛や豚には捨てる部分がほとんどないということでした。二つ目に驚いたのは、と畜解体作業をやっている人に対する偏見や差別です。その作業をやっている人たちは誇りをもってやっているのに、それを差別するなどとても考えられませんでした。ぼくはそんなことをいって差別している人は肉を食べる権利はないと思いました。

これからは、お肉を作ってくださる人、解体してくれる人たちに感謝したいと思います。ありがとうございました。

※ 今回学んだことは、2年社会科歴史的分野、3年社会科公民的分野等につながり、さらに深く学習していく予定です。

